

新約聖書 ルカによる福音書 23 章 1 節—49 節（新共同訳）

¹そこで、全会衆が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。²そして、イエスをこう訴え始めた。「この男はわが民族を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っていることが分かりました。」³そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」とお答えになった。⁴ピラトは祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。⁵しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張った。

⁶これを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、⁷ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。⁸彼はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていたし、イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。⁹それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。¹⁰祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。¹¹ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。¹²この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

¹³ピラトは、祭司長たちと議員たちと民衆とを呼び集めて、¹⁴言った。「あなたたちは、この男を民衆を惑わす者としてわたしのところに連れて来た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。¹⁵ヘロデとても同じであつた。それで、我々のもとに送り返してきたのだが、この男は死刑に当たるようなことは何もしていない。¹⁶だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」¹⁸しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。¹⁹このバラバは、都に起こった暴動と殺人のかどで投獄されていたのである。²⁰ピラトはイエスを釈放しようと思って、改めて呼びかけた。²¹しかし人々は、「十字架につける、十字架につける」と叫び続けた。²²ピラトは三度目に言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」²³ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。²⁴そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。²⁵そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。

²⁶人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。²⁷民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。²⁸イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。²⁹人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。³⁰そのとき、人々は山に向かっては、／『我々の上に崩れ落ちてくれ』と言い、／丘に向かっては、／『我々を覆ってくれ』と言い始める。³¹『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。」

³²ほかにも、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。³³「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。³⁴〔そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」〕人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。³⁵民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」³⁶兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、³⁷言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」³⁸イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

³⁹十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」⁴⁰すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れぬのか、同じ刑罰を受けているのに。⁴¹我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」⁴²そして、「イエスよ、

あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。⁴³するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

⁴⁴既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。⁴⁵太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。⁴⁶イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。⁴⁷百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。⁴⁸見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。⁴⁹イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちは遠くに立って、これらのことを見ていた。

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「霊を御手にゆだね」

本日の福音書には、主イエス・キリストの十字架の受難が記されています。

イエスは、祭司長や律法学者、群衆によって、ローマの総督ピラトに引き渡され、裁判を受け、十字架につけられました。

ピラトは、イエスの処刑を望む者たちに、三度にわたってイエスの無罪を主張します。

はじめにピラトはこう言いました。「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」(ルカ 23:4)。

二度目に、ピラトはこう言います。「訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった」(ルカ 23:14)。

そしてさらに三度目に、ピラトはこう言いました。「この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう」(ルカ 23:22)。

処刑まではしなくても、イエスを鞭打ちの刑にすれば、群衆の気持ちはおさまるのではないかとピラトは思ったのですが、そうはなりませんでした。

人々は、イエスを十字架につけるように大声で要求し続け、その声はますます強くなりました(ルカ 23:23)。

イエスを十字架につけることを回避するために、ピラトが提案した鞭打ちでしたが、結果としてイエスは、鞭打ちと十字架の両方という、さらに過酷な刑を受けることになったのです。

イエスはひどく鞭打たれたあと、自分のはりつけにされる重い十字架を担がされ、ゴルゴタ——「されこうべ」と呼ばれた刑場までを歩かされました。

そのイエスの十字架への道行きにおいて、シモンというキレネ人が、イエスの代わりに十字架を担がされます。彼は、たまたまその場に居合わせて、否応なしにローマ兵からイエスの十字架を運ぶように命じられた男です。ローマ法では、処刑に使う十字架を他の誰かに担わせることを許可していました。

キレネ人のシモンは、理不尽にも無理やり十字架を負わされましたが、イエスの後ろからついて十字架を運ぶことによって、助け人としての大きな役割を彼は果たしました。

彼がイエスの十字架を負わされて歩むときに見たのは、イエスの背中でした。その背中には、傷つき、血を流し、今にも崩れそうな主イエス・キリストの背中です。イエスの十字架を担うことは、シモン本人の意志ではなかったものの、まさに彼は、私たちの弱さや苦しみや嘆きと共にいてくださる十字架のキリストを見て歩む人でした。

民衆と、嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、刑場に向かうイエスのあとをついていきました。この民衆とは、かつてはエルサレム神殿でイエスの説教を聞き、のちにはイエスを「十字架につける」と叫んだ人々です。ここには、イエスを憎んであざ笑う人々と、イエスのために泣く婦人たちの両者がいました。イエスは、悲しんでいる婦人たちの方を振り向いて、彼女たちにこう言いました。

「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け」（ルカ 23:28）。

そこでは、ほかにも二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために引かれて行きました。イエスが犯罪人の彼らと一緒に十字架につけられたことは、イエスが罪人のひとりとされたことを表しています。

イザヤ書 53 章 12 節にこうあります。「彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。／多くの人の過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった」。

ユダヤの議員たちやローマの兵士たちは、メシアであるならば奇跡を起こして十字架から降り、自分を救えとイエスをあざ笑いました（ルカ 23:35-36）。

さらにイエスの横で十字架にかけられていた犯罪人の一人も、「自分自身と我々を救ってみろ」とイエスをののしりました（ルカ 23:39）。しかし、もう一方の犯罪人は、それをたしなめ、回心してイエスに救いを願います。そんな彼に、イエスは「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と告げました（ルカ 23:43）。この「今日」という言葉は、救いが「今」実現していることを表しています。「回心した今」、「苦しみの中にもキリストが共にいる今」、この時こそが救いの時なのです。

太陽は光を失い、全地は闇に包まれ、それが午後 12 時から午後 3 時まで続いたあと、神殿の垂れ幕が真ん中から裂けました。その時、イエスは大声で「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」と叫び、息を引き取ります（ルカ 23:46）。

ローマ兵の百人隊長は、これを見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美しました（ルカ 23:47）。続いて、「見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った」とあります（ルカ 23:48）。「胸を打つ」とは、「痛恨」を表す言葉です。イエスを十字架につけよと叫んだ人々に、悔い改めが起きたのです。悔い改めとは、心を新たにして、神の方向を向くことです。

イエスを知るすべての人たちと、一緒についてきた女性たちは、遠くに立ってこれらのことを見ていました（ルカ 23:49）。彼らは、イエス・キリストの十字架の死が、神と人との関わりを根底から変えたことを見た証人となりました。

イエス・キリストの十字架は、人類全体の救いであると同時に、一對一の救いです。

キリストの十字架は、あなたの救いです。

あなたの罪をゆるしてくれるキリストの十字架であり、あなたの心の苦しみを分かち合ってくださいの十字架なのです。

そして、あなたが屈辱を受けたと感じた時、はずかしめを受けたと感じた時、あなたのその心の痛みを主イエス・キリストが担ってくださったことを、思い出してください。

イエス・キリストは、あなたがどんな苦しみの中にいる時も、どんな嘆きや悲しみの中にいるときも、いつもあなたと共にいます。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたの御子イエス・キリストの十字架によって、私たちの歩んで行く道が与えられ、罪がゆるされました。この道をこれからも歩んでゆくことができますよう、聖霊によって私たちを強めてください。主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 イザヤ書 50 章 4 節—9 節 a（新共同訳）

⁴主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え／疲れた人を励ますように／言葉と呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし／弟子として聞き従うようにしてくださる。⁵主なる神はわたしの耳を開かれた。わたしは逆らわず、退かなかった。⁶打とうとする者には背中をまかせ／ひげを抜こうとする者には頬をまかせた。顔を隠さずに、嘲りと唾を受けた。⁷主なる神が助けてくださるから／わたしはそれを嘲りとは思わない。わたしは顔を硬い石のようにする。わたしは知っている／わたしが辱められることはない、と。⁸わたしの正しさを認める方は近くいます。誰がわたしと共に争ってくれるのか／われわれは共に立とう。誰がわたしを訴えるのか／わたしに向かって来るがよい。^{9a}見よ、主なる神が助けてくださる。

新約聖書 フィリピの信徒への手紙 2 章 5 節—11 節（新共同訳）

⁵互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。⁶キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、⁷かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、⁸へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。⁹このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。¹⁰こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、¹¹すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

教会讃美歌 81 番「血しおに染みし」、67 番「主のみ民よ」、71 番「とうとき主イエスの」。